

安芸太田町総合計画策定に係る若い世代とのフリートーク【概要】

1. 目的

令和 6（2024）年 1 月に実施した「わたしのまちづくりアンケート調査」では、20 代をはじめとする若い世代の回答率が低い結果となりました。

フリートークは、若い世代を対象を絞って本町の生活環境やまちづくり、将来展望等についての意見を収集し、次期長期総合計画へ反映することを目的に実施しました。

2. 実施日程・方法

フリートークの実施日程は次の通りです。第 1 回から第 3 回は、参加者を「広報安芸太田」と本町 H P で公募するとともに、本町の若手職員からも参加者を募りました。第 4 回は安芸太田町商工会青年部から参加者を募りました。

フリートークの実施日程

	実施月日	会 場	参加人数
第 1 回	5 月 20 日（月）	安芸太田町役場	9 人（20 代 4 人、30 代 2 人、40 代 3 人）
第 2 回	5 月 21 日（火）	筒賀福祉センター	15 人（20 代 4 人、30 代 6 人、40 代 2 人）
第 3 回	5 月 22 日（水）	太田川交流館かけはし	12 人（20 代 7 人、30 代 3 人、40 代 2 人）
第 4 回	5 月 23 日（木）	太田川交流館かけはし	9 人（20 代 0 人、30 代 7 人、40 代 2 人）

3. 主なトークテーマ

当日は、はじめに町職員が趣旨説明とわたしのまちづくりアンケート調査の概要説明を行いました。その後、中国創研研究員を司会進行役として、主に下記のトークテーマについて、参加者の意見を聞き取りました。

【主なトークテーマ】

- （1）安芸太田町の強み・弱み（売りになること、生活上の不満・課題など）
- （2）10 年後（さらに先の 30 年後）の安芸太田町があるべき姿
- （3）安芸太田町に住み続けるために町に取組んでもらいたいこと

■安芸太田町の強み・弱み

(強み)

- ・娘の子育て環境を求めて安芸太田に移住した。地域の人に恵まれ、周りに助けてもらった。人が良い。
- ・人が少ないので、子育て支援センターなどで人と出会うと知り合いになりやすく、支えあえる。地域で子供を見守ってくれるので、のびのびと子育てができる。自然の中で思いっきり遊べる。
- ・自然は見ての通り（良い）、環境的には子育てしやすいと思う。医療費が18歳まで支給されるのがすごく助かっている。ただ、どこの町も行っているから、差別化の面で心配。

(弱み、改善してほしい点)

- ・小さいコミュニティで過ごすので、近隣の人と濃密に過ごすことになる。安芸太田の良い点でもあるが、それが苦手な方にとってはしんどい地域だと思う。
- ・スーパーが閉店し、買い物が遠くなった。気軽に行けるスーパーが無くなり、不便。
- ・家業を継ぐためにUターンしたが、子供を非常に預けにくい。町の魅力がアピールされているが、実際に住んでいると相違があると感じる。
- ・日曜に仕事をしたくても預け先がない。母子家庭で母親が体調を崩した時の子供の預け先がない。
- ・安芸高田市と間違えられてしまうなど、安芸太田町の知名度が低いことが弱み。三段峡や恐羅漢の名前を出せばやっとわかる人も。
- ・自然がきれいといっても、虫が多いとか夜になるとカエルがうるさいというデメリットもあり、自然の豊かさが強みとは思っていない。休日に自然の豊かさに満たされればいい。
- ・横のつながりがあるのが必ずしも良いとは言えない。それが嫌で町から出ている人がいると思う。
- ・野菜を貰えたりするのはありがたいが、いきなり訪問されたりするような繋がりはいらないと思う。
- ・町に来たばかりの頃と今とでは価値観が大きく変わった。以前は、同業やずんぎ、お寺との付き合いなどの古いしきたりが複数あり、自分にもできるのか不安があったが、周りの人たちにとても助けてもらった。何かあったときには、人とのつながりがセーフティーネットとなる場面が多々あり、田舎暮らしの良さだと感じる。
- ・地域とのコミュニケーションをとった方が良いと思うが、地域の人を知らないで、なかなかなじめないこともあった。地域の行事や、高齢者が多く集まる輪の中に、移住者や若い世代が参加するのはなかなか勇気が必要。
- ・お母さん同士の会合も開きたいが、地域ごとに集まれる場所や、ふらっと寄れるカフェなどがない。
- ・多世代で交流するメリットを感じない。時には良いが、若い人同士で交流できるコミュニティがあり、住みやすいワンルームがいくつかあると、もう少し移住しやすくなる。
- ・仕事が減っていくと思ったが、案外そうではなかった。周りが淘汰されていって、逆に需要が増えた。従業員を雇いたくても雇う人間がおらず、対応できない。

- ・働いてくれる人が本当に少ない。
- ・従業員がやめて一人で動いている。休みはないし体は悪くなっている。教育や子育てのサポートが受けにくく、土日子供を預けられないから店を閉めるしかない。子供を預けられないで町外に出て行った人もいる。
- ・安芸太田町でしかできない仕事はない。今までやってきたからやっているだけで、新しく事業を起こすことはないと思う。どこでもできる仕事であれば、住みよい場所で働けばいい。働く場所を設ければよいという問題ではないと思う。子育て、教育、綺麗で快適な家の存在、地域の仕事を押し付けられない、という条件の方が大事だと思う。

■10年後（さらに先の30年後）の安芸太田町があるべき姿

- ・太田川の上流の綺麗な水資源を守らないと広島市内に良い水が行きわたらないという点が強みかと思うが、当たり前すぎて魅力に感じないと思う。
- ・市内の高校に出たときに、いかに自分が狭い世界で生きていたかショックを受けた。子育てをするうえで選択肢を与えてあげられるような環境で育ててあげたいと思っている。
- ・広い安芸太田のすみずみまで土地を引き継いで管理を続けていくことは不可能。草刈りや清掃などの地域活動を前提として未来を語ってはいけない。人口は減っていくので、コンパクトシティを作るなど、住みやすいイメージを描いていくべき。現在高齢者が担っている地域活動を若い人たちにも求めると、ますます遠ざかっていってしまう。
- ・衰退から復活した町の事例をみると、どこも町の機能をコンパクト化している。一つの意見だが、安芸太田の場合は戸河内 IC 付近を住みやすい地域として整備してコンパクト化を進める。水道管の老朽化など、インフラ整備における課題もあるが、徐々にコストカットしていき、限られた財源を有効に活用するべき。

■安芸太田町に住み続けるために町に取組んでもらいたいこと

- ・子どもが少ないので、こどもの医療費はただにしてはどうか。令和5年は10人しか生まれていない。
- ・住むにあたって家を探したが、室内乾燥機など広島市内だと標準的な設備がある部屋がなかった。人を呼び込むうえでは住む受け皿が必要だと思う。
- ・（移住体験について）似たような施策はあるが、（生活が）作られすぎている印象。もっと具体的なシミュレーション（買い物する場所、通学の時間帯など）ができるようにした方がいい。
- ・町に絶対小児科がなければいけないとは思わない、遠方でも車で連れていくことができるため、交通費や医療費を免除する、という方がありがたい。
- ・Iターンを獲得するのはかなり難しい。Uターンの定住の方が確実に簡単。